

この神話には大変重要な教訓が込められているので、それは、「国民は常に増やし続ける努力をしなければ、その国はいつか亡びてしまう。」ということなのです。この事が既に神代の時代の神話で語られており、

【ご案内】愛教婦人会  
「お正月飾りを作る会」開催

毎年恒例となっております。お正月飾りを作る会を左記の通り開催いたします。ご参加お待ちしております。

日時 十二月二十七日(金) 午前十一時より

場所 大阪本部 二の間

会費 一、五〇〇円

定員 二十五名

※教会事務所前の申込み封筒に、お名前ご記入の上、会費を入れて、事務所へお申込み下さい。

【ご案内】青年部  
新年恒例「初顔合わせ会」開催

青年部行事の始まり、青春の上、奮ってご参加下さい。今年も開催されます。

日時 一月十二日(日)

参加費 大人、二千元。小学生以下、千円。

※一人で投球できないお子さんは、保護者同伴でお願いします。

※お申込みは一月七日迄、教会事務所、又はお電話にてお願い致します。

教会行事  
年末(令和元年)

十二月一日(日)	月並祭	午前十時
七日(土)	西播教会修行日	午前十一時半
八日(日)	御本宮月並祭	午前九時
九日(月)	御本宮遙拝式	午前十一時
九日(月)	修 行	午後七時
十四日(土)	教 祖 祭	午後七時
十五日(日)	養老教会修行日	午前十時
月並祭	年末すすはらい	正午
二日(日)	冬至祭	午後六時二〇分
二日(日)	お水取神事	午後九時
二日(土)	おもちつき	午前九時
三十日(月)	大 祓 式	午後七時

教会行事  
年始(令和二年)

一月一日(祝)	元 旦 祭	午前十一時
三日(金)	支部新春来参式	午前十一時
五日(日)	御本宮初月並祭	午前十一時半
八日(水)	御本宮遙拝式	午前九時
九日(木)	初修行日	午前十一時、午後七時
九日(木)	修 行	午前十一時
十二日(日)	初教祖祭	午後七時
十三日(祝)	初教祖祭	午後七時
十五日(水)	初月並祭	午後七時

新春を寿ぐ  
お鏡料  
受付

お正月に、皆様の誠心をお鏡餅にして、御神前に供進いたします。

一口、金五百円。

何口でも結構です。教会事務所に専用封筒がございます。十二月二十二日まで。



発行所 宝生教大阪本部  
大阪市西區北堀江3丁目10番  
電話 06(6531)6722  
FAX 06(6531)6152  
◎ (非 売 品)

12月号

自家成立の  
根源は和にあり  
秩序の根源は  
神祖崇敬より

話 日本であるための大切な行事  
「大嘗祭」は日本精神の源

扱、昨日、今日の二日間、私達日本人にとって非常に大切な「大嘗祭」が執り行われ、新聞等のメディアでも大きく取り上げられて居りました。

では何故大嘗祭を執り行う必要があるのか。その理由は、我々日本人が、日本人であるという自覚をしっかりと持つためのものです。ですから、莫大な予算が必要であろうと、必ず受け継いでいかなければならぬ大切な行事なのです。

昨日の産経新聞の正論で、東京大学名誉教授の小堀桂一郎氏が「令和の大嘗祭を迎えるに際して」という寄稿をされておられます。

平成の大嘗祭は、この度の様に国民全体でお祝い申し上げるという雰囲気ではなかったそうです。当時は、自民党政権ではありましたが、中には政教分離の精神に反しているから憲法違反だと、大嘗祭を執り行うこと自体が議論される雰囲気だったそうです。

しかし、大嘗祭は決して憲法違反ではないという最高裁判所の判決も出、無事に執り行われた訳です。

お正月に、皆様の誠心をお鏡餅にして、御神前に供進いたします。

一口、金五百円。

何口でも結構です。教会事務所に専用封筒がございます。十二月二十二日まで。

大嘗祭は約一三〇〇年前には始まり、応仁の乱の前後約二〇〇年間は執り行われなかったとされています。

再び復活し、一三〇〇年前と変わらない、連続と続く伝統行事なのです。

では何故、大嘗祭が日本人の証しと成り得るのか。私達日本人の源流は、「古事記」や「日本書紀」といった神話にあります。

例年は新嘗祭と呼ばれるこの大嘗祭も、元々は神話を繙いて、天照皇大神を中心に、皇室の祖先神、又、日本全国の八百万の神々にその年の実りに感謝申し上げ、お供えし、そのお下がりを祭主である天皇陛下もお召し上がりになるという行事なのです。

初代神武天皇が九州を出発し東へ東へと向かい、約十七年かけて到着した橿原宮で即位されます。

その間、各地で小規模の小競り合いは見受けられましたが、大量殺戮の痕跡は見当たらないといわれております。神武天皇は弥生人であり、それ以前から住んでいた縄文人と上手く共生しながら東へ進んだということなのです。

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動

そういったことから、日本人の民族性の源流は、神道にあるのです。

ですから、大嘗祭という古式に則った伝統行事を、莫大な費用が掛かるうとも全て国費で賄い、連続と続けていくことが重要なのです。

これは則ち、天皇陛下がご即位されたことをお祝い申し上げるだけではなく、全ての日本人のために執り行われているのが大嘗祭という儀式であり、皇室という存在なのです。

この度も、大嘗祭に多額の税金を使うのはためだといつた反対集会があった様子は、小堀氏曰く、

「目下の現実問題として、憲法の謳う政教分離原則は、国内に顕在する共産主義者たち、潜在する多数の共和主義革命待望論者たち、即ち野党の人々の政治的野望を達成するための、恰好の手がかりとしての効果を有している。」

その禍々しい作用を抑制する武器として、二千年来の皇室の祭祀伝統に導かれた着生の安寧を守り抜く目的のために、現在の常識的国体論や敬神崇祖の心情的国民性論だけで果たして用を成すのであろうか。

今回の大嘗祭斎行という



可愛い笑顔に  
心も晴れやか  
七五三詣



祭典後の記念写真

### 秋晴れのもと 養老教会・秋之例大祭 厳粛に挙



養老教会長様

養老山の木々が赤や黄へと変わりつつ、肌を感じる空気が冷たくなり深まる秋を感じながら迎えた十月二十日、寶生教養老教会秋之例大祭がかくも盛大に執り行われました。

秋晴れの佳き日、本部長様ご夫妻に加え、教父様ご夫妻、副本部長様ご夫妻、教務部長様、西播教会長ご夫妻、本部支那役員の方々、名古屋敬和会と各地区からも大勢ご参拝、また養老の教信徒の方々も前々日からのご奉仕に続き、大勢ご参拝下さいました。

御神前に向かうと弊殿の両側下には白木の踏み台、祭典の進行や玉串奉奠がスムーズになるようにこの度新調されたものです。開式を知らせる大太鼓に続いて、総勢十五名による雅楽部のご奉仕で祭員が参進。祓戸を設けての修祓・御帷が上げられると、実りの秋ふんだんに御供された御神前が

お目見え。祭主祝詞、部長様の幣帛祝詞に続いては、美貴、佳那を含めた小学生4人の神楽「鈴扇」が奉納されました。初めて神楽を舞うお子様も、熱心な稽古の積み重ねで、大きな実りにつながり緊張しつつも立派に舞ってくれました。

新調された踏み台の効果もあり、各々昇殿しての玉串奉奠も滞ることなく進みました。祭典後の教会長の挨拶では、先の台風において被災された方々のお見舞いのお言葉と少しでも早い復興を願われるとともに、大祭当日にも試合があり、列島全体がワンチームとなつて応援していたラグビーの日本代表チームを率いる、キャプテンのリーチマイケル選手が必勝祈願の参拝をした宮崎県の大御社で「君が代」を高らかに斉唱されたことから、この神社には日本一大きなさざれ石があること有名、元々さざれ石というは伊吹山の麓、岐阜県揖斐川町春日で発見されたもので、養老教会からは1時間程で行ける距離にあると紹介され、石灰石が長い年月の間に雨水で溶解され、そのとき生じた粘



奉納神楽「鈴扇」

機縁に際し、国内草莽の有志達(私達のこと)、は一つの選択を迫られている。現憲法の持つ政教分離原則は、その淵源を辿れば、これ即ちアメリカ占領軍が日本国弱体化政策の一環として国民の血肉に深く突き刺しておいた棘である。

つまり、現在の日本国憲法です。憲法九条も同じ事が言えます。そして、日本は神道の国でありながら、例えは地方自治体、公民館を建てようとし、地鎮祭を執り行い、その御札を神社にお供えするだけで

は御教祖の祥月命日にもあたることから、明治の御代の精神を世に現せよと神がかりされて始まったこの教え、「影だにも 人には見えぬこの神を、世に現せよ 御嶽神風」という御教祖のお歌にもあるように、神様の御力を世に現すために修行を積み、心豊かな生活を送り、自家の祈りだけでなく今隣に座っている教友、国家の幸せを願うこと、今日も存分にその神風を受けていただき、ご家庭で振舞いもつなぐことが自家成り立つてまいりますとご挨拶なさいました。

祭典後、拝殿の準備が整えられ、教父様の乾杯の御発声により直会は始まり、お下がりのお弁当、名物の鯉の洗いを召し上がっていただきつつ、お楽しみ余興では、団子三兄弟ならぬ、養老三兄弟が全身タイツで登場。長男は副教会長、次男はその弟充保さん、三男は義理の弟水谷真さんのトリオは前日にもリハールをし、コーラス隊には小さな団子達も加わり、面白おかしく書かれた歌詞に大盛り上がり。その衣装のまま福当たりへとうつり、鰻、餅米、信徒お手製の紅シウガ詰め合わせなど真心のこもったお供えの品々、福が当たった方々は満面の笑

縁に際し、国内草莽の有志達(私達のこと)、は一つの選択を迫られている。現憲法の持つ政教分離原則は、その淵源を辿れば、これ即ちアメリカ占領軍が日本国弱体化政策の一環として国民の血肉に深く突き刺しておいた棘である。

つまり、現在の日本国憲法です。憲法九条も同じ事が言えます。そして、日本は神道の国でありながら、例えは地方自治体、公民館を建てようとし、地鎮祭を執り行い、その御札を神社にお供えするだけで

は御教祖の祥月命日にもあたることから、明治の御代の精神を世に現せよと神がかりされて始まったこの教え、「影だにも 人には見えぬこの神を、世に現せよ 御嶽神風」という御教祖のお歌にもあるように、神様の御力を世に現すために修行を積み、心豊かな生活を送り、自家の祈りだけでなく今隣に座っている教友、国家の幸せを願うこと、今日も存分にその神風を受けていただき、ご家庭で振舞いもつなぐことが自家成り立つてまいりますとご挨拶なさいました。

祭典後、拝殿の準備が整えられ、教父様の乾杯の御発声により直会は始まり、お下がりのお弁当、名物の鯉の洗いを召し上がっていただきつつ、お楽しみ余興では、団子三兄弟ならぬ、養老三兄弟が全身タイツで登場。長男は副教会長、次男はその弟充保さん、三男は義理の弟水谷真さんのトリオは前日にもリハールをし、コーラス隊には小さな団子達も加わり、面白おかしく書かれた歌詞に大盛り上がり。その衣装のまま福当たりへとうつり、鰻、餅米、信徒お手製の紅シウガ詰め合わせなど真心のこもったお供えの品々、福が当たった方々は満面の笑

### 御本宮 月並祭 毎月第一日曜日 午前十一時半より

### 青空に大屋根の新瓦輝き―西播教会秋之例大祭 盛大に開教会八十五周年並御本殿五十周年記念大祭 執行



西播教会長様

素晴らしい秋の空高く、数日前より整えられた境内を輝かせています。

今年の菊小屋は天孫降臨、高千穂峡です。数日前に大楠を切り、その枝を利用し、素晴らしい出来栄の高千穂峡が出来上がりました。一年を掛けて育てた菊の盆景もかわいらしく彩添えています。

そして、この大祭を迎えるに当たり、数年前から御奉納を賜り、見事に完成、



御本殿一杯の参拝者一同着座拝



「立派に舞い納められた奉納舞楽「蘭陵王」

支那教信徒も東は横濱、西は九州の方々を始め、近隣各地からの大勢の参拝の方が、役員さんがニコニコ迎える中お参り下さいました。

祭典は定刻、高濱総代典儀のもと、厳粛に斎行されました。

大神様、御教祖様、各家の御祖先様方に今日を迎えられた喜びを感謝申し上げ、更なるご守護を願う祝詞を奏上され、教主様にも幣帛祝詞を奏上頂き、この大祭の超目玉である、舞楽「蘭



高千穂峡に盆景の美しい菊小屋



新しく葺きかえられた大屋根。教紋入りの鬼瓦に隅蓋には浪に宝珠も。



直会。勇壮な御津太鼓に獅子舞

近年、日本では人口の減少が大変危惧されており、これは日本の将来のみならず、今を生きている私達にも影響があるかも知れない。人口の減少がその国にとって良くない事態であり、国民は常に増やし続けなければならないという事は、実は神代の時代、『古事記』の中で既に語られているのです。

日本の国土を始め、森羅万象ありとあらゆるものをお生みになった、伊弉諾之尊と伊弉冉之尊。最後に

「火」をお生みになった伊弉冉之尊は、身体が焼けお亡くなりになります。伊弉諾之尊は黄泉之國(死後の世界)へ会いに行きますが、伊弉冉之尊は既に黄泉之國の住人になってしまわれていました。

決して自らの亡骸を見ないで欲しいという伊弉冉之尊との約束を破ってしまった伊弉諾之尊は、怒り追いかけてくる伊弉冉之尊から必死に逃げ、黄泉比良坂という場所に大きな岩を置き、黄泉之國との行き来をできなくしてしまいました。

その現世と死後の世界の境で、伊弉諾之尊と伊弉冉之尊はある言葉を交わされます。伊弉冉之尊が、「あなたの国の青人草(日本国民)を、毎日千人殺し殺します。」と告げます。それに対し伊弉諾之尊は、「では私は、毎日千五百の産屋を建てよう。」と返すのです。

つまり、毎日千五百人の日本国民を産む。そうすれば、毎日五百人ずつ増えることになるだろうと伝えた

会場。教父様のご発声で賑やかに開会です。

和やかな雰囲気、互いにお腹を満たしている間に、此度の記念事業を紹介する映像が映され、今更ながら大変な事業で、感謝の

他ありません。

そして、今回の余興は山本光毅さん主体の御津太鼓の面々による太鼓演奏に獅子舞、子供によるパプリカがコラボし、勇壮で、かつ楽しく、手拍子、拍手の渦巻くものでした。

そして、恒例の福引大会。今年も盛りだくさんの景品の数々に、一喜一憂、まさしく福福と景品を頂かれ、養老教会長様のご発声で万歳三唱。目出度くお開きとなりました。

本部、養老よりの参拝の方々をお見送りし、山の記念日と、大阪本部の方々数名も含めて、支那教信徒が登壇致しました。

本日に素晴らしい天候のもとでこの記念大祭が斎行されましたこと、参拝の皆様、殊に支那教信徒、役員の皆様に厚く感謝申し上げます。

西播教会長次男 山本修敏

### 家庭づくりの励み 人口減少は自由しき問題―月並祭(11月)